

片マヒ自立研究会を知った頃

河野 元一

「100回記念誌」とは、まことに快挙です。
心から快哉を叫びます。

E・メールで原稿の呼びかけを見て、「片マヒ自立研究会」を知った頃を思い出しました。

9年近く前にならうか、脳出血で開頭手術を受け、尾道総合病院脳神経外科に入院中、弟が居住する東広島市立図書館で見つけて借りてきたと、森山会長著『歩けた！ 手が動いた』を持ってきてくれました。

ボクの我が儘で「借り物でなく、ゆっくり読んでみたいから、本屋で探して、買ってきてくれないか」と頼みました。

ところが、「本屋さんに在庫がなく、絶版で取り寄せできないようだ」ということでした。

その場にいた妹が、後に森山様に電話をかけて、直接お願いしたようで、やがて、『脳卒中後の生活とりハビリ』の本や資料等とともに、上記の本が届きました。

森山様に、お礼の電話をしましたが、その時は既に、みつぎ公立病院リハビリ科に転院し、構音障害克服のため、言語リハビリも相当に及び、緊張しながらも、かなりハッキリ（森山様の印象？）お話しできたのが、どんなに嬉しいことであったか。

その後、自立研究会に入会を認めていただき、遠隔地ながらも、ご縁が続いていることを、喜んでいるものです。

どうか、この先、森山会長はじめ、会員諸兄姉の、ご指導をお願い申し上げます。

日本中を旅せむと買いし旅行地図半身麻痺となりて捨てしか
半身麻痺となりて捨てにし旅行地図妻が拾いて共に往かむと言う
妻も吾も共に古稀の坂を越ゆ手を取り人生の歌を歌わん
来世でこの妻再び我妻と心に秘めて彼岸に往かむ

